

会長通信～活動報告～

半田市シルバー人材センター会長の活動報告を「会長通信～活動報告～」として
会員のみなさま向け、不定期ですが報告させていただきます。

愛知県シルバー人材センター連合会

令和7年度「会長・女性委員会合同研修会」参加報告

開催日時 令和7年11月12日（水）13時30分～

開催場所 ウィンクあいち 1001 会議室

出席者 中村会長

報告

この会議は、愛知県下のシルバー人材センター会長・事務局長が一堂に会して、シルバー人材センターを運営していくうえで参考になる情報を共有し、よりよい方向に事業運営ができるための勉強会として毎年実施されている。今年は、女性委員会との合同研修として、シルバー人材センターにおける女性会員の活躍の事例を三重県の「松坂市シルバー人材センター」及び埼玉県の「草加市シルバー人材センター」から事例報告とディスカッションが行われた。

●松坂市シルバー人材センター理事長野呂健司氏 ➡松坂市シルバー人材センターSWOT 分析 <会員数:1,088人>

	好影響	悪影響
内部環境	強み(Strengths) <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な経験の人財*（会員）を有する ・女性が活躍する風土が地域に根付いている ・女性会員の比率が高い（46%） ・職員（スタッフ）が他センターに比較し若い（平均年齢46歳） ・「シルバーさんをお願いしたら」というブランド力 ・会員同士の交流（互助会活動）ができています ・就業先が比較的バランスよくある（公民比36:64） 	弱み(Weaknesses) <ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化、体力の低下 ・会員に対しシルバーの意義が浸透しにくい ・職人（剪定など）が不足 ・対象地域が広範囲であり就業に対する地域差あり ・他市町村シルバー人材センターとの連携が薄い ・会員の生活環境（介護、孫の世話）変化 ・民間就業会員のシルバーに対する帰属意識が低下 ・職員（スタッフ）が他センターに比較し若い <会員への寄り添い方の課題>
外部環境	機会 (Opportunity) <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の加速により住居・所有地管理が手薄 ・松坂市が「こどもまんなか政策」を発信 ・入会説明会参加者の若返り（60歳代増） ・インボイス制度、電子帳簿保存法の施行、フリーランス法対応 ・公益法人改革の改正（R7.4.1） ・2025年問題（人手不足） 	脅威 (Threat) <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の雇用延長に対する制度化（高齢法改正） ・国、地方公共団体からの補助金制度の変化 ・インボイス制度（適格請求書保存法式）の導入 ・シルバーに対するイメージの固定化（草刈り、剪定） ・地球温暖化による夏季屋外就業会員の健康管理

※朱書き、<>内及び矢印については、報告を受け関連性があると判断し中村が付記。*の人財の財は材ではなくあえて財を使用しているとのこと。

■実践例

①ホームページを全面改良➡日本一のホームページを目指す

仕事拡大にはホームページが重要。トップページは見やすく、常に発信続けることが事業拡大につながる
→職員は、1週間に1回ブログを書き掲載「職員ブログ：鳥の目・虫の目」＝複眼的な視野を持つこと

②事務所玄関のリニューアル➡訪問時にワクワク感を持ってもらう：入会への誘導

③定時総会のイメージチェンジ➡議案書を読むだけでなく、3部制（1部ライブ、2部総会、3部互助会総会）→出席者増につながる

④職員による朝礼実施➡シルバー人材センターの評価は事務局の対応で決まる

⑤「松坂さんまくらぶ」事業本格化➡松坂市総合計画の子育て政策を全面支援

放課後・長期休業中における児童クラブ（公設公営）事業を受託➡女性会員が大活躍

■事業運営から事業経営へ

適正な財源的余裕により経営の安定化につながる「ダム式経営」を目指し、KPI（key performance indicator）管理を行い、最終目標を達成するためのプロセスを明確にし、適切に実行されているか、その達成度合いを都度計測している。

●草加市シルバー人材センター専門員岡田卓也氏・理事藤原啓子氏⇒女性の活躍の場を創出
＜会員数:5,386人＞

高齢法の改正により男性入会希望者が、100名単位で減少し、入会は70歳過ぎのため高齢化が顕著。そのため女性にターゲットを絞り、女性の入会者を増やすために女性の活躍の場を創出する取り組みを推進。

■実践例

- ①女性のためのシルバー説明会⇒毎年定期的に開催（出張形式）
- ②「のびーすく」⇒子育て支援として、0～3歳児の親子が集える居場所を作り、子育て相談などをおこない現役世代を応援。
- ③「児童クラブ事業」⇒市の要望を受け、夏休み受け入れからスタート。18クラブ800人の利用者。
- ④「ちょこっと手助けサービス」⇒市から介護ボランティアへの要請があり、ゴミ出し、植木の水やり、買い物など地域ささえあい、社会の担い手として活動。
- ⑤「家事援助サービス」「訪問介護サービス」⇒楽しく安心して暮らせるために家事手伝などを支援。
- ⑥「認知症高齢者家族やすらぎ支援事業」⇒認知症の方の話し相手をする⇒現在40人が活動。
- ⑦人手不足の分野で一番依頼が多い「清掃作業」、品出しや調理などをする「スーパー各種作業」
- ⑧「カルチャー教室」「サークル」の運営⇒会員が講師となり会員向けに開催⇒仲間づくり・生きがいがづくり
※運営主体は親睦会「結の会」（会員が運営）

▶カルチャークラブ

色鉛筆画	水彩画	英会話
脳トレそろばん	詩吟	旬の魚をさばく
トールペイント	写真	卓球

▶サークル

ゴルフ	そば打ち	小物作り	ぬり絵
ゆっ歩	グランドゴルフ	琴	
麻雀	書道	よさこい	
混声合唱	カラオケ	囲碁将棋	

- ⑨特によさこいサークルは、センターの広報的役割が大きい。様々な大会に参加し、草加市シルバー人材センターを連呼しPRしている。演舞は女性だけ（旗手のみ男性）で、平均年齢75歳。新規会員確保と後継者育成及びレベルアップを図っている。（草加よさこい「銀翔」）

報告のあった両センターは、自治体との深い連携を持ち、地域支援とそこに携わる会員の拡大強化のために就業先の確保や新規事業推進など積極的な活動展開をされてみえた。特に女性の活躍の場作りにも力を入れ「女性なくしてセンターは成り立たません」と提唱されてみえたのが印象的だった。なお、両センターとも規模が大きいセンターのため本センターとは比較にはならないが、今後の新規事業展開を検討していく上でのメルクマールになると思われる。

